

ベニシュスラン *Goodyera biflora* (Lindl.) Hook.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、地域固有性 1、総点 13。三河山地区南部には点在するが個体数は少なく、最近見る機会も減少している。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は横にはい、先端は斜上～直立して高さ 3～6cm になる。葉は直立部に数個が互生し、長さ 0.5～1cm の柄があり、葉身は卵形～やや長卵形、大きいもので長さ 2.5～4cm、幅 1.2～2cm、先端は鋭頭～鈍頭、表面は全体緑色または主脈に沿って不明瞭な白条がある。葉柄の基部は葉鞘となって茎をつつむ。花期は 7～8 月、花は茎の上部に 1～3 個つき、淡紅色で筒状、花被片は長さ 3～3.5cm、先端は斜開し、苞は広披針形で長さ 18～23mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 77980, 2002-8-24)、3 東栄 (小林元男 41184, 1993-4-5)、8 鳳来北東部 (芹沢 84488, 2009-7-15)、9 鳳来南部 (小林元男 49561, 1993-11-14)。

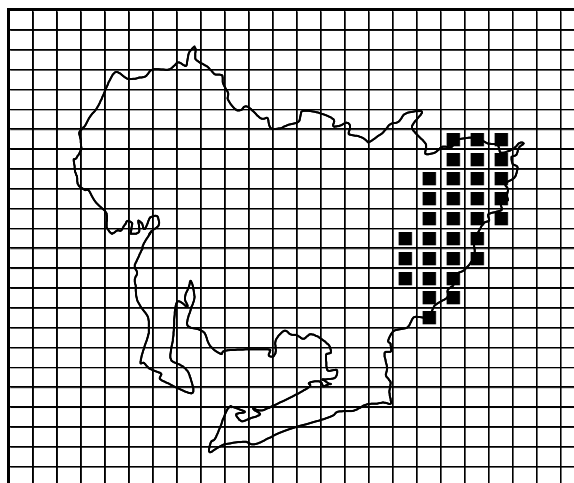
【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの陰湿な岩上に生育する。群生することはない、どこも少数の個体が生育しているだけである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとそれほど多い植物ではなかったが、最近特に見かける機会が減少している。園芸目的の採取が原因と思われるが、はっきりしない。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林を保全することが必要である。また園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し、慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

シュスラン属の中では例外的に花の大きい種類であるが、花が筒状なので、それほど目立つわけではない。

【関連文献】

保草本III p.41, 平草本 I p.212, 平新版 I p.204.